

未来への可能性あります。

「飯南町ってどんなまち？」。皆さんはどう答えますか。



私にもできることがある

「飯南町をよくしていくのは町民自身なんだ」。そう話すのは門所詠子さん(下赤名)です。この日は、長生き体操の会場で地域の皆さんに「飯南本執筆講座」を受講し、自ら執筆した記事が掲載されている書籍「余白の中で」を紹介していました。門所さんは、昨年2月から町企画のブランドメッセージ



取材した時の状況や記事を書く楽しさを話す門所さん(後列左から2人目)



「余白の中で。」書影

プロジェクトに企画。「最初は友人に誘われ、何気なく参加してみました」と門所さん。Iターン者や若い世代の人など、これまで話したことなかった人たちの話を聞いた。まちのことを真剣に考えたりすることで、自分の中にあった「まちづくりは役場のすること」という固定概念が覆されたそう。

「のほほんと暮らすだけではもったいない。やりたいことや志を持って暮らしたいと思いました。飯南町を好きな気持ちがあれば、自分にもできることがある」と門所さん。ブランドメッセージ決定後も、書籍「余白の中で」の記事執筆など、自分なりにまちづくりにつながる取組を楽しんでいます。

皆さんからの声

門所さんが企画したブランドメッセージプロジェクトは、全国広報コンクール「広報企画部門」で、住民の目線を活かした作品が対象の「読売新聞社賞」を受賞。行政だけの取組ではなく、主体的に企画した町民の皆さんとの官民一体となった地域づくりが評価されました。

この取組に企画した門所さんは「『つながりをもちたい』という意見は、町民・町外在住者の共通の意見でした。これらの意見や、町民の皆



「魅力はあるのに伝わっていない」など、まちや行政に対して多くの意見をもらいました(令和2年度i座談会)

皆さんに「まちの目指す方向性」が伝わっていないことは、町として大きな課題。町ではこれらの意見に対応するため「ブランドメッセージ」を町民の皆さんと作成・展開する過程により、まちを真剣に思い行動する人の増加を図ることに。

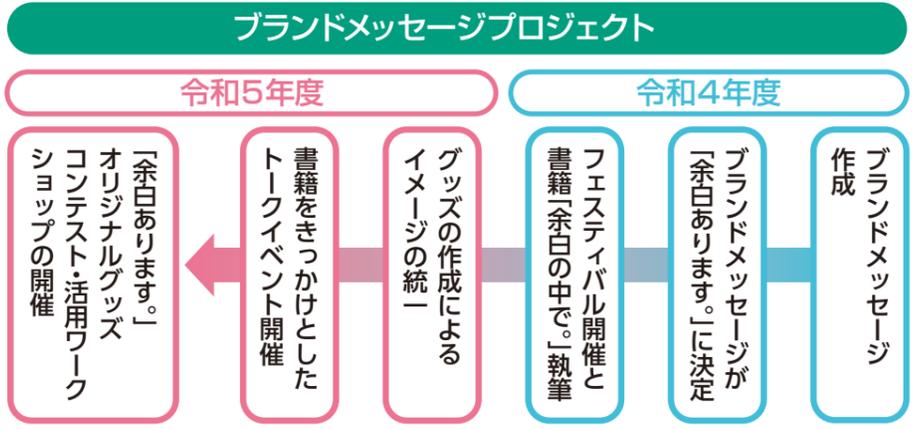
町民の皆さんと、飯南町の魅力やこれからの将来を考えることにしました。

これまでの動き

まちの目指すべき理想の姿や、このまちの魅力を表す「ブランドメッセージ」の作成を、東海大学河井孝仁教授の監修のもと実施。高校生



一人一人の熱い想いを共有しながら、全6回のワークショップなどで4つのメッセージ案を作成(ブランドメッセージプロジェクト)



から70代まで幅広い世代28人がワークショップに参画しました。

その後「ブランドメッセージ総選挙」を実施し、ブランドメッセージは「余白あります。」に決定しました。



書籍を通して、まちの魅力や暮らしを表現。町民ライターの皆さんも記事を執筆(飯南本執筆講座)

世代や立場を超えた交流が門所さんの刺激に、自らの考えも積極的に話しました(ブランドメッセージプロジェクト)



まちの未来に向けて

ブランドメッセージプロジェクトは、全国広報コンクール「広報企画部門」で、住民の目線を活かした作品が対象の「読売新聞社賞」を受賞。行政だけの取組ではなく、主体的に企画した町民の皆さんとの官民一体となった地域づくりが評価されました。

この取組に企画した門所



発表の場としてブランドメッセージフェスティバルを開催。趣味や特技を活かした町民の皆さんのテント市がずらりと並びました



共にプロジェクトに取り組んだ皆さんを代表して法被を着て授賞式に。成果や課題を今後の取組に活かしていきます

さんは「町民一人一人の気持ちや行動が、子どもたちにも伝わるし、まちを良くしていくんだと思えるようになりました」と話します。

町民の皆さんがまちづくりに参画し、まちに誇りを持ち暮らす人や、まちのことを自分事として真剣に考える人が増えることで、地域が持続的に発展するはず。今後「『余白あります。』オリジナルグッズコンテスト」や「活用ワークショップ」など取組を継続し、皆さんと共に、よりよいまちの未来を目指します。